

県外派遣報告書

報告者 加藤 昂

- 1 大会名 令和7年度九州中学校体育大会
第55回九州中学校バスケットボール競技大会
- 2 派遣期間 8月8日～8月9日
- 3 会場 久留米アリーナ

○8月8日(金) 男子1回戦 牟田山(福岡2位) - 北谷(沖縄1位)

CC:佐多(宮崎) U1:北島(佐賀) U2:加藤

P G C

- ①メカニクスの確認…エッジに関しては基本的にはLが見るが、パス&クラッシュやペイント内のアクティブなマッチアップには目を当て続けTがカバー。Cは「3POの生命線」リバウンドマッチアップやスクリーンの表と裏などTとLの見えない部分をサポート。
- ②スカウティング(キープレーヤー、チームの特性など)…両チームとも多くの情報を得ることはできなかつたため、Game中のコミュニケーションを積極的に行う。

実 際

- ・1Qのファーストコールのプレーは自分の目の前で起きたが判定することができなかつた。
「コンタクトがあった(事実確認)→分析(責任)→RSBQが崩れた(影響)→call」
アングルは取れていたつもりでいたがレフリーディフェンスが十分ではなく、ディフェンスをレフェリーすることができず、オフenseが接触を求めにいったと分析してしまった。映像で見返すと、ディフェンスが寄せたところの接触であり、責任はディフェンスの方にあった。
- ・ブロックチャージの際どい判定の後にゲームコントロールとしてクルーの吹いたものを理解した上で反対のチームにも同じように判定を行うことができた。
- ・セカンダリで判定に加わることでできたケースがあった。
- ・ローテーションが重くなってしまった。コミュニケーションは取れていたものの、一歩遅れてしまい、インサイドプレーに対してストロングサイドを作ることができなかつた。
- ・赤旗の上がるケース(1回目)が発生した。試合を止め、正しい処置を行うことができた。
どういうプレーで試合が止まったかによって再開方法なども変わってくるため、MCはもちろんだが、審判も正しい再開方法を確認しておかなければならないと感じた。

M T G 藤田氏(長崎)

- ・笛が多すぎることなく、見ていて楽しい試合であった。手をつけ続けるプレーについて気になるケースもあったため、映像での検証が必要。
- ・セカンダリで飛び込んだプレーに関しては会場があれ?となっているところに笛が入ったためとても良かった。

○8月8日(金) 男子2回戦 白川(熊本2位) - 中村三陽(福岡1位)

CC:渡久地(沖縄) U1:佐多(宮崎) U2:加藤

P G C

- ①メカニクスの確認…エッジのプライマリーとペイントアタックへのプライマリーについて確認を行なった。ペイント内はLのプライマリーなので積極的に「判定をする」が「無理はしない」。他のアングルから見えている。
- ②スカウティング(キーププレイヤー, チームの特性など)…キーププレイヤーの 1on1 が多く発生する。サドンショットやステップバックなどが多いため 3or2 の協力。

実 際

・PGC で確認をした, プルアップジャンパーがLの目の前で発生した。選手の180cm代の長身の選手であり, プレーが近すぎてhitの部分でcallすることができなかった。



〈分析〉近づいてくるようなドライブに対して, 長く見れているのはTであるがプライマリーはLのためLがcallしたかったケース。今後に向けて①壁側に一步動き, プレーを大きく見る。②ドライブに合わせてタイマー側に一步動き, プレーを大きく見る。今回は U15 の試合だったため, まだ見やすかったがそれ以上のカテゴリーになるとこのようなケースは増えてくるため, 自分の引き出しとして持っておきたい。

- ・1Qでコーチの自チーム選手に対する高圧的な態度と発言に対してCCがテクニカルファールをcallした。コーチも納得した様子であり, その後は選手に対しても前向きな声かけが増え, 結果としてゲームコントロールに繋がった。このような対応については瞬間的な言葉だけを切り取らず, 最後までしっかり聞いたうえでの判断が必要。
- ・ヘルプディフェンダーのAtoBのファールをcallできた。良いアングルを取り, ヘルプディフェンダーを捉えることができた。

M T G 境氏(福岡)

- ・積極的にローテーションを行い strong side を作れたことはよかった。
- ・キーププレイヤーに対してハードな Def を仕掛けていたのでテンポセットとして前半どこかで笛を入れてもよかったのかもしれない。Defの手が気になった。
→明らかなものを取りこぼさない。特に苦しい方がされたファールに対しては丁寧に。

○8月9日(日) 男子代表決定戦 与勝(沖縄2位) - 北谷(沖縄1位)

CC:野田(福岡) U1:佐多(宮崎) U2:加藤

P G C

- ①メカニクスの確認…エッジのプライマリー, ヘルプディフェンダーについて。
- ②スカウティング(キープレイヤー, チームの特性, ローテーションのタイミングなど)
- ③ゲームの位置付け…勝った方が全中を決める。同県対決であるが県予選も2点差のGameだったため僅差が予想される。

実 際

- ・自分自身のファースト call は 1Q の最後であった。プレーをよく見てペイシエントすることができた。
- ・ローテーションに関しては PGC で確認をしていた通り 1on1 が多く, 1on1 に関してはローテーションはしないという方向で確認を行なった。ローテーション前に目を合わせながら合図を送ることができた。1 試合通してクルーで目が合うシーンが多かった。
- ・1 試合通して両チームともファールは少ない試合であったが, 要所で CC がゲームコントロールとなる call をされていた。またクルーからバーバルサポートも勉強させていただいた。ショットクロックの際どいところやゲーム再開など声を使うことで選手だけでなく会場中に示されていた。自分の今後の課題としていきたい。

M T G 伊藤氏(福岡)

- ・判定の見せ方を工夫すると良い。笛だけでなく声やジェスチャーで試合を引っ張れると説得力が増してくる。選手やスタッフ, 観客への見せ方・伝え方には今後意識して取り組んでいきたい。
- ・プレーをよく見て, ペイシエントホイッスルで call することができていたので今後も磨いてほしい。審査に向けて①より積極的に判定に参加する②何かが起きた時に CCM を発揮する。この2点を意識してほしいというお言葉をいただいた。

○全体を通して

今大会では「ポジションアジャスト」と「CCM」を自分のテーマとして試合に臨みました。「ポジションアジャスト」は毎試合課題が見つかりました。しかしこれまでの反省を生かして上手くいくことも増えてきていると感じました。また県外のクルーと吹いた時も CCM を持って判定に参加できた部分もあったが, より積極性を持っていい, というお言葉をいただきました。苦しいところに飛び込みいく度胸と力を今後つけていきたいです。また担当する試合に向けてスカウティングや映像分析など, 全中強化研修会で学んだことを実践することができました。今後も映像の振り返りやスカウティングなど試合に向けた準備を大切にしていきたいと思います。

大会期間中は県外の審判員の方々と交流をさせていただく中で, 様々な知識や刺激をいただきました。今大会で学んだことを, 県内に還元していくとともに, 間近に迫る鹿児島全中に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが, 本大会への派遣をご快諾いただいた原田審判長はじめ鹿児島県バスケットボール協会の皆様, 大会運営にご尽力いただきました福岡県の皆様に感謝申し上げます。派遣のご報告といたします。ありがとうございました。